

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：32661

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24390513

研究課題名(和文)セルフ・ネグレクト高齢者への効果的な介入・支援とその評価に関する実践的研究

研究課題名(英文) Practical study on effective intervention / support and evaluation of elder self-neglect

研究代表者

岸 恵美子 (KISHI, Emiko)

東邦大学・看護学部・教授

研究者番号：80310217

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、これまでの調査結果と文献検討、および研究者らの検討でセルフ・ネグレクトの定義と概念をまず整理した。そのうえで、本研究の一環として、研究者らが加わった他の調査結果のデータの二次分析を行い、セルフ・ネグレクトの主要な状態像を類型化し、孤立死との関連と課題を分析した。またいわゆるごみ屋敷条例を先駆的に施行している自治体の対回事例の分析と、地域包括支援センターの職員を対象としたフォーカスグループインタビューの結果から、効果的な介入・支援方法を検討した。以上の成果から、介入・支援ツールの最終案を開発し、現場で活用できる「セルフ・ネグレクトの予防と支援の手引き」を成果物として作成した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we firstly summarized the definitions and concepts of self-neglect based on investigation results and literature review so far and investigations by researchers. In addition, as a part of this research, we conducted a secondary analysis of the data of other survey results that researchers joined, categorized the main state images of self-neglect, and analyzed the association and issues with solitary death. We also examined effective intervention and support methods from the analysis of countermeasures of municipalities that pioneered the ordinance on "garbage house", and the results of focus group interviews for staff of Regional General Support Center. Based on the above results, we developed the final draft of intervention and support tools and created the "self-neglect prevention and support guidance" that can be utilized on site as deliverables.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：セルフ・ネグレクト 孤立死 高齢者 不衛生な家屋 介入 評価 ツール開発

### 1. 研究開始当初の背景

津村ら(津村他、2006)は海外の文献検討から、セルフ・ネグレクトを、「高齢者が通常一人の人として、生活において当然行すべき行為を行わない、あるいは行う能力がないことから、自己の心身の安全や健康が脅かされる状態に陥ること」と定義しているが、日本でまだ共通の統一した定義は示されていない。研究者らは日本において初めての全国的な規模のセルフ・ネグレクトの調査を、2009年12月～2010年1月に全国の地域包括支援センターを対象に実施した。その結果、セルフ・ネグレクト状態の高齢者は、慢性疾患に罹患している者が約4割を占め、アルコール依存症や精神疾患に罹患している者はそれぞれ約2割を占め、生命や健康に影響を及ぼす状態であることが明らかになった。また、そのような生命や健康にかかわる状況であるにもかかわらず、7割は独居高齢者であり、「他人との関わりを拒否」「近隣住民との関わりがない」が約7割、「閉じこもり状態」が6割を超えており、「社会的孤立」の状態にあることが明らかになった(岸他、2011)。

一方、孤立死との関連では、孤立死事例の約8割が生前にセルフ・ネグレクト状態であると推測され、セルフ・ネグレクトは孤立死の予備軍であることも明らかになった(岸他、2011)。シカゴにおける前向きコホート研究でも、セルフ・ネグレクト状態にある事例の1年以内の死亡リスクは通常の高齢者より高い【HR】5.82と報告されており(Dong et al. 2009)。セルフ・ネグレクトは公衆衛生学的にも早急に介入・支援が必要である。

しかし、セルフ・ネグレクトの概念、要因、介入方法については、海外も含めて研究途上である。特に日本では、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」(以下、高齢者虐待防止法)で、セルフ・ネグレクトは高齢者虐待の定義から除外されているため、高齢者虐待に比較し、有効な介入方法の検討がされていないばかりか、正確な実態としての数が把握されておらず、対応が極めて遅れている現状である。一方で、介入・対応する専門職も、専門職としてセルフ・ネグレクト事例に関わるうえで、生命や健康を優先して介入すべきか、本人の意思を優先し人権を尊重すべきかのジレンマを抱え、介入への困難や迷いがある(浜崎、岸他、2011)。

介入プログラムの作成、介入の効果を評価できる介入評価ツールを開発することは、対応する専門職の困難を軽減し、セルフ・ネグレクト高齢者を早期に発見し孤立させないだけでなく、孤立死を回避し死亡リスクを減少させることにつながる。これまでの研究成果をもとに、セルフ・ネグレクト高齢者への効果的な介入・支援方法を確立するため、介入ツールの開発、介入プログラムの作成を行うことは、地域包括ケアシステム構築をすすめるうえで自治体にとっても有益であると

考える。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、2008～2010年度基盤研究(B)で研究者らが開発した介入ツールをさらに発展させ、セルフ・ネグレクト状態にある高齢者の「予防介入プログラム」と「介入支援プログラム」を精選するとともに、介入の効果を測定する「介入評価ツール」を開発することである。さらに、地域の特性を生かした地域介入ツールとして、実践に適用可能な「地域アセスメントツール」を作成し、自治体に成果として還元し、地域包括ケアシステム構築の一助となるよう普及する。

本研究により、セルフ・ネグレクト高齢者の孤立化、それに続く孤立死を防ぐだけでなく、孤立化・孤立死予防のネットワークづくりから、地域づくりの推進へと寄与するものである。

### 3. 研究の方法

(1) 2008～2010年度の基盤研究(B)の全国調査の結果、その後の調査結果、文献検討から、研究者らで検討し、セルフ・ネグレクトの定義、構成する概念を明確にする。

(2) 研究者らがかかわったセルフ・ネグレクトに関する大規模な調査の結果について、二次データとして分析することの承諾を得たため、セルフ・ネグレクトの実態、セルフ・ネグレクトの要因、セルフ・ネグレクトと孤立死の関連、セルフ・ネグレクトへの対応に必要なネットワークの構築についてさらに分析し成果を示す。

(3) 先進的にセルフ・ネグレクトを含む高齢者への孤立予防対策やコミュニティ再生の活動を行っている自治体への視察と面接調査を行い、セルフ・ネグレクトアセスメントツールの地域版を開発する。

(4) セルフ・ネグレクトの一類型であるゴミ屋敷やホーディングシンドロームについての文献検討、清掃業者へのヒアリング、地域包括支援センターの職員を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、効果的な介入・支援方法を検討する。

(5) セルフ・ネグレクトの中でも、特に対応に苦慮している「極端に不衛生な家で生活する人」に先駆的に条例を施行して対応している自治体の対応事例を分析し、効果的な介入・支援方法を検討する。

(6) 以上の成果から、研究者らで検討を繰り返し、最終案としてのアセスメントおよび介入・支援ツールを開発する。「セルフ・ネグレクトアセスメントツール」「セルフ・ネグレクト介入ツール」「ため込みの人のアセスメントツール」「セルフ・ネグレクト地域アセスメントツール」を開発し、「セルフ・ネグレクトの予防と支援の手引き」を作成する。

### 4. 研究成果

(1) 「セルフ・ネグレクトとは、健康、生命

および社会生活の維持に必要な、個人衛生、住環境の衛生もしくは整備又は健康行動を放棄・放任していること」(野村・岸ら、2014)と定義し、図1のように概念を整理した(図1)。

(2)データの二次分析を行い、セルフ・ネグレクトと判断された高齢者について、その主要な状態像を類型化し、基本属性および孤立死を含むセルフ・ネグレクト状態の深刻度とその関連を分析した。結果として、高齢者のセルフ・ネグレクト状態にはいくつかの異なるパターンがあり、特に孤立死対策としては、複合型の事例だけでなく、サービス拒否や近隣から孤立しがちな人々へのアウトリーチが必要であることが示唆された。

(3)セルフ・ネグレクトを含む高齢者への孤立予防対策を行っている自治体への視察と面接調査の結果を分析し、セルフ・ネグレクト地域アセスメントツールを開発した。

(4)地域包括支援センターの職員を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、データを分析して効果的な介入・支援方法を検討し、介入・支援のポイントとして整理した(図2)。

(5)セルフ・ネグレクトの中でも、特に対応に苦慮している「極端に不衛生な家で生活する人」に先駆的に条例を施行して対応している自治体の対応事例の分析から、効果的な支援方法と支援の課題を検討した。条例が施行されても課題解決には時間を要し、最終しない事例が約半数あることが明らかになった。約4割に認知症の低下や精神疾患などがあることから、早期に対応できるネットワークの構築が急務であることが示唆された。事例分析の結果、本人との信頼関係・支援関係を構築しながら、家族・親族、近隣住民、関係機関に働きかけることで、対象者が孤立せず地域で生活を再構築できるよう支援することが有効な介入・支援方法として抽出された。今後は、対応する職員のスキル向上のために、介入・支援方法をさらに洗練させ周知することが課題である。

(6)セルフ・ネグレクトのリスクを査定する「セルフ・ネグレクトリスクアセスメントツール」、セルフ・ネグレクトかどうかをスクリーニングする「セルフネグレクトスクリーニング項目」、セルフ・ネグレクトの状態を査定する「セルフ・ネグレクトアセスメントツール」、セルフ・ネグレクトの重症度や対応の緊急度を査定する「セルフ・ネグレクト重症度スケール」を作成した。スクリーニング票については、一部の地域で実際に使用してもらった結果を検証し、ツールの妥当性を検討した。

(7)これまでの研究成果から、研究者らで検討を繰り返し、最終案としての「セルフネグレクトアセスメントツール」「セルフ・ネグレクト介入ツール」「ため込みの人のアセスメントツール」「セルフ・ネグレクト地域アセスメントツール」を作成し、「セルフ・

ネグレクトの予防と支援の手引き」として報告書を作成し、自治体および関連する研究機関等に送付した。

(8)研究成果を著書として刊行した。著書には、セルフ・ネグレクトの概念整理だけでなく、セルフ・ネグレクト事例への具体的な対応の実践例、自治体としての先駆的な取り組み事例を含め、研究成果から事例対応のポイントや留意点を記載し、現場で活用できるものとして成果を還元した。

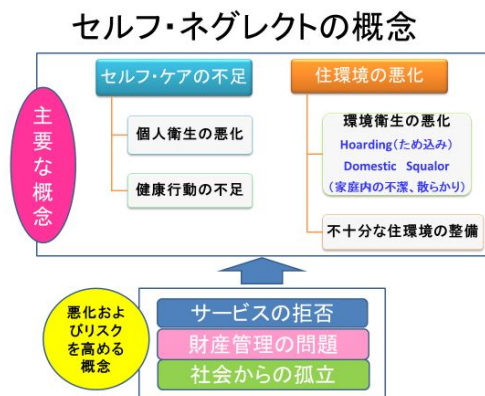


図1. セルフ・ネグレクトの概念

### 各期の専門職の介入・支援のポイント

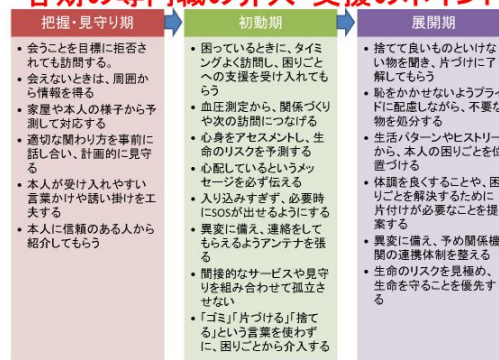


図2. セルフ・ネグレクトへの介入・支援のポイント

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

岸恵美子；介護家族への効果的な介入と支援、査読無、地域保健、48巻2号、p32-35、2017。

岸恵美子；セルフ・ネグレクトと孤立死を予防するための地域包括ケアシステム-予防・医療・介護を看護職がシームレスにつなぐには-、査読無、岩手看護学会誌、10巻1号、p28-30、2016。

斎藤雅茂、岸恵美子、野村祥平；高齢者のセルフ・ネグレクト事例の類型化と孤立死との関連-地域包括支援センター

への全国調査の二次分析、査読有、厚生  
生の指標、63巻、p1-7、2016.

小長谷百絵、下園美保子、岸恵美子、野  
村祥平、吉岡幸子、野尻由香、望月由紀  
子、浜崎優子、米澤純子；地域包括支援  
センターの専門職による高齢者のセルフ  
・ネグレクトへの支援の必要性の認識、  
査読有、高齢者虐待防止研究、11巻1号、  
p117-132、2015.

岸恵美子、野尻由香、米澤純子、吉岡幸  
子、望月由紀子、小長谷百絵、浜崎優子、  
麻生保子、下園美保子、野村祥平、齋藤  
雅茂；地域包括支援センター看護職のセル  
フ・ネグレクト事例への介入方法の分  
析、査読有、高齢者虐待防止研究、第10  
巻1号、p106-120、2014.

野村祥平、岸恵美子、小長谷百絵、浜崎  
優子、吉岡幸子、麻生保子、野尻由香、  
望月由紀子、下園美保子、米澤純子、齋  
藤雅茂；高齢者のセルフ・ネグレクトの  
理論的な概念と実証研究の課題に關する  
考察、査読有、高齢者虐待防止研究、  
第10巻1号、p175-187、2014.

岸恵美子；セルフ・ネグレクトからみた  
在宅看護の課題、日本在宅看護学会誌、  
査読無、第2巻2号、p25-28、2014.

岸恵美子；孤立死の実態からみた課題と  
対策、査読無、RESEARCH BUREAU 論究、  
第10号、p36-4445、2013.

岸恵美子；ゴミ屋敷にすむ人々 セルフ  
・ネグレクトの実態と対応、日本在宅  
ケア学会誌、査読無、17巻1号、p27-32、  
2013.

小長谷百絵、岸恵美子、野村祥平、  
吉岡幸子、野尻由香、望月由紀子、  
浜崎優子、米澤純子；高齢者のセルフ  
・ネグレクトを構成する因子の抽出  
専門職のセルフ・ネグレクトへの支援の  
認識から、査読有、高齢者虐待防止研究、  
第9巻1号、p54-63、2013.

岸恵美子；セルフ・ネグレクトと孤立死、  
査読無、高齢者虐待防止研究、第9巻1  
号、p22-28、2013.

岸恵美子；独居高齢者の孤立死の実態と  
防止策、査読無、公衆衛生 76巻9号、  
p14-18、2012.

岸恵美子；セルフ・ネグレクトの視点から  
考える孤立死、査読無、月刊福祉、9  
巻、p18-21、2012.

[学会発表](計15件)

岸恵美子；セルフ・ネグレクトの実態と  
専門職に求められる役割、日本臨床倫理  
学会第5回年次大会 シンポジウム、  
2017年3月20日、昭和大学医学部附属  
看護専門学校(東京都品川区)

岸恵美子、下園美保子、齋藤雅茂、野尻  
由香、望月由紀子、麻生保子、吉岡幸子、  
浜崎優子、小長谷百絵、野村祥平、米澤  
純子；Types and features of elderlies  
in the state of self-neglect in Japan、  
18th EAFONS、2015年2月6日、台北市  
(台湾).

麻生保子、望月由紀子、野尻由香、下園  
美保子、浜崎優子、吉岡幸子、岸恵美子；  
極端に不衛生な家屋で生活する高齢者  
を支援する地域包括支援センター職員の  
職種別介入方法の比較、第3回日本公  
衆衛生看護学会学術集会、2015年1月  
10日、神戸国際会議場(兵庫県・神戸市).

望月由紀子、岸恵美子、麻生保子、野尻  
友香、下園美保子、小長谷百絵、浜崎優  
子、吉岡幸子、野村祥平、齋藤雅茂、米  
澤純子；極端に不衛生な家屋で生活する  
セルフ・ネグレクト高齢者の特徴と専門  
職が直面する困難、第19回日本在宅ケ  
ア学会学術集会、2014年11月29日、九  
州大学百年講堂(福岡県・福岡市).

岸恵美子、望月由紀子、麻生保子、野尻  
由香、下園美保子、小長谷百絵、浜崎優  
子、吉岡幸子、野村祥平、齋藤雅茂、  
米澤純子；極端に不衛生な家屋で生活す  
るセルフ・ネグレクト高齢者に対応する  
専門職の介入・支援、第19回日本在宅  
ケア学会学術集会、2014年11月29日、  
九州大学百年講堂(福岡県・福岡市).

岸恵美子、下園美保子、野尻由香、麻生  
保子、望月由紀子、吉岡幸子、小長谷百  
絵、浜崎優子、米澤純子；セルフ・ネグ  
レクト高齢者のタイプによる専門職の  
支援の必要性の認識、第33回日本看護  
科学学会学術集会、2013年12月7日、  
大阪国際会議場(大阪府・大阪市).

岸恵美子；セルフ・ネグレクトからみた  
在宅看護の課題、第3回日本在宅看護学  
会学術集会、2013年11月16日、東邦大  
学看護学部(東京都・大田区).

下園美保子、岸恵美子、麻生保子、野尻由香、望月由紀子、吉岡幸子、浜崎優子、小長谷百絵、米澤純子、野村祥平、斉藤雅茂、；セルフ・ネグレクト事例の改善に影響する要因-全国調査の結果より-、第72回日本公衆衛生学会、2013年10月25日、三重県総合文化センター（三重県・津市）。

岸恵美子、下園美保子、麻生保子、野尻由香、望月由紀子、吉岡幸子、浜崎優子、小長谷百絵、米澤純子、野村祥平、斉藤雅茂、；セルフ・ネグレクト事例に関わる専門職の困難と課題-全国調査の結果より-、第72回日本公衆衛生学会、2013年10月25日、三重県総合文化センター（三重県・津市）。

Emiko Kishi , Shohei Nomura , Sachiko Yoshioka , Yuka Nojiri , Masashige Saito , kimika Usui ; A Study of Relationship between Solitary Death and Self-Neglect among the Aged in Japan (1)Fact about Self-Neglect of the Aged seen in Cases of Solitary Death in Community、Internattional Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR)、2013年3月14日、エジンバラ(スコットランド)。

Shohei Nomura ,Emiko Kishi ,Sachiko Yoshioka ,Yuka Nojiri ,Masashige Saito , kimika Usui ; A Study of Relationship between Solitary Death and Self-Neglect among the Aged in Japan (2)  
- Self-Neglect Cases seen from the factors related to the elapsed days、Internattional Collaboration for Community Health Nursing Research (ICCHNR)、2013年3月14日、エジンバラ(スコットランド)。

岸恵美子；ゴミ屋敷にすむ人々 セルフ・ネグレクトの実態と対応、第17回日本在宅ケア学会、2013年3月9日、茨城県立県民文化センター（茨城県・水戸市）。

岸恵美子、野村祥平、吉岡幸子、野尻由香、斉藤雅茂、臼井キミカ；セルフ・ネグレクトと孤立死との関連 高齢者の孤立死事例の分析から、第71回日本公衆衛生学会総会、2012年10月26日、山口市民会館（山口県・山口市）。

岸恵美子、野尻由香、吉岡幸子、望月由紀子、小長谷百絵、米澤純子；意図的なセルフ・ネグレクト状態の高齢者に対応する専門職の困難と課題、第38回日本看護研究学会学術集会、2012年7月8日、沖縄コンベンションセンター（沖縄県・宜野湾市）。

岸恵美子、吉岡幸子、野尻由香、望月由紀子、小長谷百絵、浜崎優子、米澤純子；高齢者のセルフ・ネグレクト事例の介入初期の状態を構成する因子の検討 - 地域包括支援センターを対象とした悉皆調査の結果より -、第15回日本地域看護学会学術集会、2012年6月23日、聖路加看護大学（東京都・中央区）。

#### 〔図書〕(計2件)

岸恵美子編集代表、吉岡幸子、小宮山恵美、滝沢香編集、小長谷百恵、浜崎優子、野尻由香、麻生保子、望月由紀子、下園美保子、斉藤雅茂、野村祥平他著；セルフ・ネグレクトの人への支援 ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防、総頁321、中央法規、2015。

岸恵美子；ルポ ゴミ屋敷に棲む人々 孤立死を呼ぶ「セルフ・ネグレクト」の実態、総頁182、幻冬舎新書、2012。

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岸 恵美子 (KISHI, Emiko)  
東邦大学・看護学部・教授  
研究者番号：80310217

### (2) 研究分担者

吉岡 幸子 (YOSHIOKA, Sachiko)  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・  
准教授  
研究者番号：40341838

浜崎 優子 (HAMAZAKI, Yuko)  
佛教大学・保健医療福祉学部・教授  
研究者番号：00454231

斉藤 雅茂 (SAITO, Masashige)  
日本福祉大学・社会福祉学部・准教授  
研究者番号：70548768

### (3) 連携研究者

小長谷 百絵 (KONAGAYA, Momoe)  
上智大学・総合人間科学部・教授  
研究者番号：10269293

野尻 由香 (NOJIRI, Yuka)  
帝京大学・医療技術学部・准教授  
研究者番号：10407968

望月 由紀子 (MOCHIZUKI, Yukiko)  
帝京大学・医療技術学部・講師  
研究者番号：70440253

下園 美保子 (SHIMOZONO, Mihoko)  
愛知県立大学・看護学部・講師  
研究者番号：90632638

米澤純子 (YONEZAWA, Jumko)  
東京家政大学・看護学部・准教授  
研究者番号：50289972

麻生 保子 (ASOU, Yasuko)  
帝京大学・医療技術学部・准教授  
研究者番号：80509646

### (4) 研究協力者

野村 祥平 (NOMURA, Syohei)  
東京保護観察所 社会復帰調整官